

広島平和記念式典小中学生派遣事業

平和を受け継ぐ

磐田市では平成22年度から、市内10中学校の代表者による『広島平和記念式典中学生派遣事業』をスタートさせました。

平成25年度からは、小学校の代表者も加わり『広島平和記念式典小中学生派遣事業』は、本年度で10回目を迎え、8月5・6日に広島を訪れました。

広島に原爆が投下されてから74年。時代が変わっても脈々と受け継がれる平和への想い。子どもたちが被爆地・広島で「見て」「聞いて」「感じた」ことを紹介します。



を 伝えたい



想いのほじまり

磐田市では平成21年4月1日、『核兵器廃絶平和都市宣言』を制定しました。

これを受け、これからの時代を担う若者に「戦争」や「平和」について、実際に自分たちの目で「見て」「感じて」もらいたいという想いを込めて、『広島平和記念式典小中学生派遣事業』を実施しています。

安田女子高校訪問

8月5日(月)、広島に着いた子どもたちは、被爆桜の苗木を譲り受けた安田女子高校(広島市中区)を訪問しました。そこで平和活動の中心となっている生徒会の方から、慰霊碑や被爆桜の前で「戦争」や「平和」、「被爆桜」に対する思いを聞き、過去を風化させないように伝えることの大切さを学びました。



▲慰霊碑についての説明を受ける子どもたち

被爆した桜を残すだけでなく、全国の小中学校に分け、平和について考えさせてくれてすごいと思った。

松本啓一郎 (磐田西小)

平和記念公園・平和記念資料館

平和記念公園ではボランティアガイドの方から多くの話を聞くことができました。子どもたちは一言も聞き漏らさないように耳を傾け、熱心にメモを取っていました。

原爆の悲惨さ、残酷さを感じた。「平和」というのは最も近くにあつて、最も遠くにあるものだと考えるようになった。

石河希望 (南部中)

原爆ドームが広島や人々の平和への歩みを見守ってきたということが伝わってきた。

藤津咲希 (磐田東中)

原爆が原因で今もまだ苦しんでいる人たちがたくさんいることが分かった。

宗像柚奈 (福田小)

絵や写真を見ながら、戦争はつらかったんだなと思うと悲しくなった。

鈴木ここみ (豊田東小)

戦争は絶対にしてはいけない。戦争の恐ろしさや平和の幸せを改めて感じた。

野口結愛 (豊田南小)



現地で感じたこと 多くの人に



平和記念式典参加

8月6日(火)午前8時。台風の影響で天候が心配される中、被爆者、遺族、各国の来賓、市民ら約5万人が参列し、広島平和記念式典が始まりました。厳かな雰囲気の中、式典は粛々と進み、原爆投下時刻の8時15分には「黙とう」、その後広島市長による「平和宣言」や、こども代表による「平和への誓い」などが行われました。

同年代の子が「自分の周りを平和にすることは、自分たち子どもにもできること」と話す言葉は磐田の子どもたちの心に響きました。

今ある平和を守っていききたい。

鈴木貫太 (豊岡中)

小さな争いごとをしない。身近な人とも仲良くする。

山根ゆず穂 (磐田北小)

ケンカは小さな戦争なのでケンをなくしたい。

澤元奏和 (東部小)

人として互いに認め合うことが大切だと思う。

武内飛朗 (田原小)

令和元年度 広島平和記念式典小中学生派遣団

- | | |
|---------------|---------------|
| 矢部 洸綺 (磐田第一中) | 武内 飛朗 (田原小) |
| 城地 優輝 (城山中) | 山崎 温輝 (富士見小) |
| 室合理沙子 (向陽中) | 宗像 柚奈 (福田小) |
| 丸山 凜 (神明中) | 梅村 悠乃 (豊浜小) |
| 石河 希望 (南部中) | 古田 愛実 (竜洋東小) |
| 工藤 遼人 (福田中) | 山下 風音 (竜洋西小) |
| 村田 夏葵 (竜洋中) | 木本 彩夢 (竜洋北小) |
| 寺田 樹生 (豊田中) | 野口 結愛 (豊田南小) |
| 大場 千鶴 (豊田南中) | 倉橋くるみ (豊田北部小) |
| 鈴木 貫太 (豊岡中) | 伊藤 ゆい (青城小) |
| 藤津 咲希 (磐田東中) | 鈴木ここみ (豊田東小) |
| 山根ゆず穂 (磐田北小) | 鈴木 萌花 (豊岡南小) |
| 大場壬太郎 (磐田中部小) | 鈴木太一朗 (豊岡北小) |
| 松本啓一郎 (磐田西小) | |
| 永井 敦仁 (磐田南小) | |
| 澤元 奏和 (東部小) | |
| 土屋 大駕 (大藤小) | |
| 永田 創士 (向笠小) | |
| 磯部健士郎 (長野小) | |
| 永井 聡倫 (岩田小) | |



伝え、受け継がれる平和

竜洋東小学校の古田愛実まなみさんは広島訪問を振り返り、次のように語ってくれました。

「広島ヒロシマを知ることがは未来を考えること」。いつでも平和が当たり前なんて考えてはいけません。戦争、原爆の恐ろしさを知って、平和という素晴らしい、喜びを知ってほしい。広島で学んだことを家族や学校の友だち、これから誕生するであろう子どもや孫にも伝えたいと思います。

広島から広がる平和への想いはいつまでも受け継がれていくことでしょう。

市長メッセージ

若い感性で平和について考えてほしい

この地に立って何かを感じとってほしい

そして未来へ語りついでほしい

原爆資料館の展示物では、原爆の投下直後から年月が過ぎても被爆者、ご遺族の方々のつらく苦しい生活を目の当たりにしました。そして、今も苦しんでいる人たちがいます。

戦争は大切な人を消し、平和は大切な人を笑顔にします。今回私たちが学んだことを多くの人たちに伝え、平和について考え話し合いたいです。

大場千鶴ちづるさん（豊田南中）

戦争では人々の命が次々と奪われていきます。戦争も原爆も本当に怖いと思いました。

広島で何があったのか教えてくれた被爆者に感謝し、命の大切さ、広島が受け継いできたことを静岡の僕たちも一緒に受け継ぎたいと思います。

永田創士そうしさん（向笠小）

ラジオで、伝える



▲ 8月9日（金）放送のSBSラジオ「磐田情報局」に出演（写真左から大場さん、永田さん）

平和祈念式で、伝える

寺田樹生たつきさん（豊田中）

広島で戦争や原爆がいかに非人道的であるかを学ぶことができました。

自分の言葉や行動に責任を持ち、相手の気持ちになって違いを理解しようと努力して、自分の周りを平和にすることは、少し意識すれば誰でもすぐにできます。小さく小さいなことですが、その意思をより多くの人々が続けられれば、平和な世界へと近づいていくのではないかと思います。（スピーチから抜粋）

◀ 8月15日（日）に市民文化会館で行われた磐田市平和祈念式



子どもたちが考える平和とは…

罪なき人々が傷つかず、皆で笑って過ごせるとき。

丸山凛りんさん（神明中）

人々が仲良く平等に、国を問わずにいるとき。

永井聡倫さとるさん（岩田小）

みんな笑顔でごく普通に毎日が過ごせること。

木本彩夢あやめさん（竜洋北小）

平和への想いがつないだ縁

～安田女子高校 被爆桜～

安田女子高校の被爆桜は、75年間は草木も生えないと言われた被爆地で、翌年の春、見事に花を咲かせました。その後、同校生徒会が接ぎ木で増やし後世に伝えています。

第1回目の式典参加時に、派遣団が平和記念公園でボランティアをしていた同校の生徒と偶然話をしたことが縁となり、被爆桜の苗木をいただきました。この苗木は市内の小中学校とかぶと塚公園に植えられています。

これ以降、磐田の子どもたちは毎年式典参加に合わせて同校を訪問し、生徒との交流が今も続いています。

◀かぶと塚公園内で咲く被爆桜

▼被爆桜の強い生命力を感じました ▼安田女子高校で感謝の意を伝えました



広島平和記念式典中学生派遣事業記念植樹 被爆桜

広島での経験が今の自分に生かされている 第1回参加者の声

広島で感じたこと

原爆ドームは教科書で見ましたが、実際に見ると空気の違いを肌で感じました。

また、資料館は展示品などに目映るものが戦争の生々しさを語っていて、とても衝撃的で怖かったことを覚えています。

「広島へ行った」ということ

当時の記憶はあいまいですが「広島へ行った」という事実は自分の中に強く残っていることを感じます。参加後、戦争や平和についての考え方や意識が変わり、身近なこととして捉えるようになったと思います。

大学在学中に「ヒロシマ」



玉井 里於さん (23歳)

磐田市在住 豊田中学校出身

玉井さんは9年前の第1回の派遣団に豊田中代表として参加しました。他校の代表者と一緒に平和記念資料館と原爆ドームを見学し、平和記念式典へ参列しました。

▶当時の玉井さん (左)



について留学生と話す機会がありました。自分の経験を伝え、思いを共有することができました。

現地で見えたこと、感じたことは貴重な経験となり、今の自分の考え方や行動に生かされていると思います。これからも多くの人に伝えていきたいです。

これからの子どもたちへ

教科書ではわからない、現地に行かなければ感じられないことがあります。同年代の子と一緒にいき、それを共有できるのは素晴らしい経験になるはず。機会があればぜひ参加して、いろいろな学んでほしいと思います。